

実務プロジェクトを通じて人材を育成するプロジェクトワークアウト

～株式会社アスプロスの取組み紹介～

株式会社アスプロス
代表取締役社長 西田絢子

株式会社アスプロスは、製造業を中心にプロジェクトマネジメントの研修や製造現場の改善コンサルティング、プロジェクトマネジメントの導入コンサルティングや人材育成を実施しています。

多くの経営者の方と話をさせていただく機会が多くありますが、現場での悩みは多岐にわたります。

例えば、

- ・(最近では)人が採用できない。採用したくて内定を出しても若手は大手企業に行ってしまう。
- ・過去、就職氷河期時代に人を採用しなかったのが、今の主力となる30～40代がいらない。
- ・今まで、体系だった教育は実施してこなかった。
- ・仕事が個人商店化してしまい、チームで仕事をする機会が少ない。
- ・働き方改革、業務効率化、業務量が多いが時間が限られ少ない人数で捌けず疲弊してしまう。
- ・コミュニケーションが希薄になっている。(若い世代にどう接してよいかわからない)
- ・次期リーダーを育成したいが、リーダーになりたい若者が少ない。

このような悩みを聞くと“人”に関する問題が多く、その問題に対してどのように取り組んでいくのかを考える必要があります。プロジェクトマネジメントの研修を担当して、15

年になります。座学の研修だけでは人は育たないと感じています。また、人が成長するにはとても時間がかかるということやちょっとしたきっかけで変わる人もいれば、何を働きかけても全く変わらない人もいるという人材育成の難しさもあらためて実感しています。

色々な企業で研修をする機会も多くありますが、皆さんとても優秀な人ばかりです。プロジェクトマネジメントもPMBOKという言葉を知らなくても、学べばすぐにフレームワークを理解することができます。「なるほど、わかった」と頭で理解できても、実際は「できない」というのが現状です。

なぜこのようなことが起こるのかといえば、業務とは複雑な問題が絡み合った究極の問題解決だからです。座学で扱う事例やケーススタディではなく、今まさにメンバーが直面している解決しなければいけない問題とは、決まりきった答えがあるわけではなく、自分たちで意思決定をし、答えを出していかなければならない真剣なものだからです。これからの企業にとって、座学ではなく実務を通じた人材育成が重要な取り組み課題といえます。

弊社でもこのような問題を解決していくために、“プロジェクトワークアウト”という取り組みを企業の皆様と一緒に実践しています。“ワークアウト”と聞くと、トレーニングジムをイメージされる人も多いかもしれませんが、そのイメージ通りの取り組みです。

“プロジェクトワークアウト”とは、メンバーが主体的に考え行動し、目標を達成するための実践力を身につけるプロジェクトマネジメントの筋力トレーニングプログラムです。従来の講義だけの研修とは違い、実務プロジェクトにプロジェクトマネジメントを導入し実践を通して人材を育成していきます。(図 1 および図 2)先に述べた複雑な問題を解決するためには、見せる筋肉ではなく、本当に使える筋肉を鍛えることが必要です。やり方を教わっただけでは使える筋肉は身に付きません。日々の業務の中で小さな負荷をかけつつコツコツと続けることで身に付きます。

10年にわたり50以上のチームにおいてプロジェクトワークアウトを実践してきましたが、プロジェクト目標の達成やメンバーの行動変容、チームにおける問題解決のやり方など人材育成の成果を実感することができました。なんとなくOJTと呼んで人材育成をしたつもりになるのではなく、日常の業務課題というかっこうの教育の場を活かし、人材育成をする場・体制を社内に構築していくお手伝いをしていきたいと思ひます。

平成30年5月8日受理

